

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年2月6日
【四半期会計期間】	第49期第3四半期（自平成29年10月1日至平成29年12月31日）
【会社名】	株式会社アサックス
【英訳名】	ASAX CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 草間 庸文
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区広尾一丁目3番14号
【電話番号】	03(3445)0404
【事務連絡者氏名】	総務統括部長 松川 雅一
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区広尾一丁目3番14号
【電話番号】	03(3445)0404
【事務連絡者氏名】	総務統括部長 松川 雅一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次		第48期 第3四半期累計期間	第49期 第3四半期累計期間	第48期
会計期間		自平成28年4月1日 至平成28年12月31日	自平成29年4月1日 至平成29年12月31日	自平成28年4月1日 至平成29年3月31日
営業収益	(千円)	4,757,731	4,579,376	6,261,374
経常利益	(千円)	3,267,965	3,224,092	4,237,529
四半期(当期)純利益	(千円)	2,119,659	2,092,927	2,740,620
持分法を適用した場合の投資利益	(千円)	-	-	-
資本金	(千円)	2,307,848	2,307,848	2,307,848
発行済株式総数	(株)	10,993,500	10,993,500	10,993,500
純資産額	(千円)	30,020,521	32,239,770	30,641,482
総資産額	(千円)	68,940,806	70,073,521	69,681,730
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	192.83	190.40	249.32
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
1株当たり配当額	(円)	-	-	45.00
自己資本比率	(%)	43.5	46.0	44.0

回次		第48期 第3四半期会計期間	第49期 第3四半期会計期間
会計期間		自平成28年10月1日 至平成28年12月31日	自平成29年10月1日 至平成29年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	66.84	68.41

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 営業収益には消費税等を含んでおります。

3. 持分法を適用すべき関連会社がないため、持分法を適用した場合の投資利益は記載しておりません。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

#### (1)業績の状況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、企業収益は引き続き堅調に推移し、設備投資や雇用状況も概ね安定的であったことから、緩やかな回復基調が継続しております。

不動産金融市場においては、日銀による金融緩和により、資金調達環境が引き続き良好であることを背景に、不動産の流動性も堅調な状況で推移いたしておりますが、これまで上昇傾向にあった地価は一部で頭打ち感が見られ、先行きについては留意する必要があります。

このような環境の下、当社におきましては、顧客獲得競争の激化が懸念される中であっても、従来通り「債権の健全性」を重視した顧客開拓を行ってまいりました。

その結果、当第3四半期末における営業貸付金残高は、前事業年度末の66,365,295千円から843,288千円(1.3%)増加の67,208,583千円となりました。

当第3四半期累計期間における経営成績は以下の通りであります。

営業貸付金利息は、期中平均営業貸付金残高が前年同四半期比1.0%の増加となったものの、貸出利率の低下により前年同四半期比182,446千円(4.7%)の減少となりました。

その他の営業収益は、手数料収入が前年同四半期比54,244千円(11.2%)の増加となったものの、解約違約金が前年同四半期比54,469千円(19.8%)の減少となったこと等により、前年同四半期比4,091千円(0.5%)の増加となりました。

以上により、当第3四半期累計期間における営業収益は、前年同四半期比178,354千円(3.7%)の減少となりました。

金融費用は、期中平均有利子負債残高が前年同四半期比4.1%の減少となり、平均調達金利も低下したことにより、前年同四半期比103,407千円(23.3%)の減少となりました。

その他の営業費用は、前年同四半期比15,611千円(1.5%)の減少となりました。

以上により、当第3四半期累計期間における営業費用は、前年同四半期比138,497千円(9.3%)の減少となりました。

営業外損益、特別損益ともに利益に大きな影響を与えるものはなく、法人税等合計は前年同四半期比14,755千円(1.3%)の減少となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間における業績は、営業収益は4,579,376千円(前年同四半期比3.7%減)、営業費用は1,352,106千円(同9.3%減)となり、営業利益は3,227,270千円(同1.2%減)、経常利益は3,224,092千円(同1.3%減)、四半期純利益は2,092,927千円(同1.3%減)となりました。

なお、当社は不動産担保ローン事業の単一セグメントであるため、セグメントに関連付けた記載は行っておりません。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

(4) 営業の状況

営業収益の状況

当第3四半期累計期間の営業収益をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	前年同四半期比(%)
不動産担保ローン事業 (千円)	4,579,376	3.7
報告セグメント計 (千円)	4,579,376	3.7
合計 (千円)	4,579,376	3.7

(注) 消費税等につきましては、税込方式で表示しております。

営業貸付金増減額及び残高

区分	前第3四半期累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
	金額(千円)	金額(千円)
期首残高	66,666,289	66,365,295
期中貸付額	18,654,636	20,076,065
期中回収額	19,353,307	19,232,777
破産更生債権等振替額	-	-
貸倒償却額	-	-
四半期会計期間末残高	65,967,618	67,208,583
平均貸付金残高	66,507,442	67,142,862

営業貸付金残高の内訳  
利率別貸付金残高

利率別	前第3四半期会計期間末 (平成28年12月31日)				当第3四半期会計期間末 (平成29年12月31日)			
	件数		残高(千円)		件数		残高(千円)	
		構成割合(%)		構成割合(%)		構成割合(%)		構成割合(%)
4.0%以下	6	0.1	649,491	1.0	33	0.5	3,326,364	5.0
4.0%超 5.0%以下	145	2.4	6,562,362	9.9	196	3.2	7,260,163	10.8
5.0%超 6.0%以下	224	3.8	6,517,101	9.9	246	4.1	5,616,624	8.4
6.0%超 7.0%以下	614	10.4	12,334,855	18.7	1,511	25.1	22,922,445	34.1
7.0%超 8.0%以下	3,128	52.8	31,034,504	47.1	3,213	53.3	24,327,554	36.2
8.0%超 9.0%以下	1,650	27.9	8,403,324	12.7	786	13.0	3,659,723	5.4
9.0%超 10.0%以下	154	2.6	463,928	0.7	46	0.8	95,707	0.1
10.0%超 14.0%以下	3	0.0	2,050	0.0	-	-	-	-
合計	5,924	100.0	65,967,618	100.0	6,031	100.0	67,208,583	100.0

(注) 件数は同一顧客の場合でも契約が異なる場合は1件として計算しておりますので、顧客数での表示とは相違があります。

調達実績  
借入先別内訳

借入先別	前第3四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)			当第3四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)		
	調達額 (千円)	返済額 (千円)	四半期末残高 (千円)	調達額 (千円)	返済額 (千円)	四半期末残高 (千円)
都市銀行	1,200,000	1,412,936	3,720,968	1,200,000	1,329,259	3,920,453
地方銀行	5,300,000	5,631,066	16,198,002	4,500,000	4,681,112	16,789,311
信託銀行	1,000,000	413,650	1,980,550	800,000	526,640	2,091,030
その他銀行	2,000,000	1,808,000	5,017,500	3,000,000	1,548,000	6,504,500
保険会社	500,000	25,000	475,000	300,000	75,000	675,000
事業会社	1,057,000	2,499,721	4,351,650	500,000	1,520,195	2,550,759
証券化借入金	-	1,040,000	5,628,000	-	1,404,000	3,756,000
合計	11,057,000	12,830,374	37,371,670	10,300,000	11,084,206	36,287,053

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	36,000,000
計	36,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成30年2月6日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	10,993,500	10,993,500	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	10,993,500	10,993,500	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年10月1日～ 平成29年12月31日	-	10,993,500	-	2,307,848	-	-

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,991,700	109,917	-
単元未満株式	普通株式 300	-	-
発行済株式総数	10,993,500	-	-
総株主の議決権	-	109,917	-

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社アサックス	東京都渋谷区広尾一丁目3番14号	1,500	-	1,500	0.01
計	-	1,500	-	1,500	0.01

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）及び「特定金融会社等の会計の整理に関する命令」（平成11年総理府・大蔵省令第32号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3. 四半期連結財務諸表について

四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則（平成19年内閣府令第64号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

## 1【四半期財務諸表】

## (1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,279,511	1,522,734
営業貸付金	66,365,295	67,208,583
販売用不動産	5,367	32,430
前払費用	27,112	25,529
繰延税金資産	89,836	46,586
その他	270,934	645,940
貸倒引当金	73,200	74,400
流動資産合計	68,964,858	69,407,404
固定資産		
有形固定資産	110,134	91,521
無形固定資産	68,537	60,784
投資その他の資産		
破産更生債権等	12,889	12,854
その他	538,110	513,756
貸倒引当金	12,800	12,800
投資その他の資産合計	538,200	513,810
固定資産合計	716,872	666,116
資産合計	69,681,730	70,073,521
<b>負債の部</b>		
流動負債		
1年以内返済予定の長期借入金	12,903,759	11,990,373
未払金	33,395	35,596
未払費用	45,567	52,480
未払法人税等	770,712	357,882
預り金	22,683	27,691
前受収益	12,382	11,156
賞与引当金	28,248	3,459
その他	33	16
流動負債合計	13,816,783	12,478,657
固定負債		
長期借入金	24,167,500	24,296,680
退職給付引当金	70,200	66,800
役員退職慰労引当金	973,750	977,625
その他	12,014	13,989
固定負債合計	25,223,464	25,355,094
負債合計	39,040,247	37,833,751
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,307,848	2,307,848
利益剰余金	28,334,884	29,933,172
自己株式	1,250	1,250
株主資本合計	30,641,482	32,239,770
純資産合計	30,641,482	32,239,770
負債純資産合計	69,681,730	70,073,521

( 2 ) 【四半期損益計算書】  
【第3四半期累計期間】

( 単位：千円 )

	前第3四半期累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
営業収益		
営業貸付金利息	3,879,023	3,696,577
その他の営業収益	878,708	882,799
営業収益合計	4,757,731	4,579,376
営業費用		
金融費用	444,584	341,177
売上原価	21,386	1,907
その他の営業費用	1,024,633	1,009,021
営業費用合計	1,490,604	1,352,106
営業利益	3,267,127	3,227,270
営業外収益		
受取利息	18	11
関係会社貸付金利息	66	272
受取手数料	40	268
償却債権取立益	90	198
雑収入	622	1,410
営業外収益合計	837	2,161
営業外費用		
固定資産除却損	-	5,339
営業外費用合計	-	5,339
経常利益	3,267,965	3,224,092
特別利益		
固定資産売却益	53	2,439
特別利益合計	53	2,439
税引前四半期純利益	3,268,018	3,226,532
法人税、住民税及び事業税	1,100,336	1,085,828
法人税等調整額	48,022	47,775
法人税等合計	1,148,359	1,133,604
四半期純利益	2,119,659	2,092,927

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

偶発債務の状況は以下のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成29年12月31日)
保証業務に係る債務保証残高	10,892,996千円	12,684,945千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
減価償却費	25,382千円	26,429千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	494,640	45	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

当第3四半期累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	494,640	45	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、不動産担保ローン事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	192円83銭	190円40銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 (千円)	2,119,659	2,092,927
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額 (千円)	2,119,659	2,092,927
普通株式の期中平均株式数 (株)	10,992,000	10,992,000

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年 2月 6日

株式会社アサックス

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉田 亮一 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 板谷 秀穂 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アサックスの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第49期事業年度の第3四半期会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アサックスの平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。